

月刊

しばうら

2026 年 10 月号

牛肉営業部

令和 8 年度全国肉用牛枝肉共励会

セリ販売日 10 月 30 日（金）

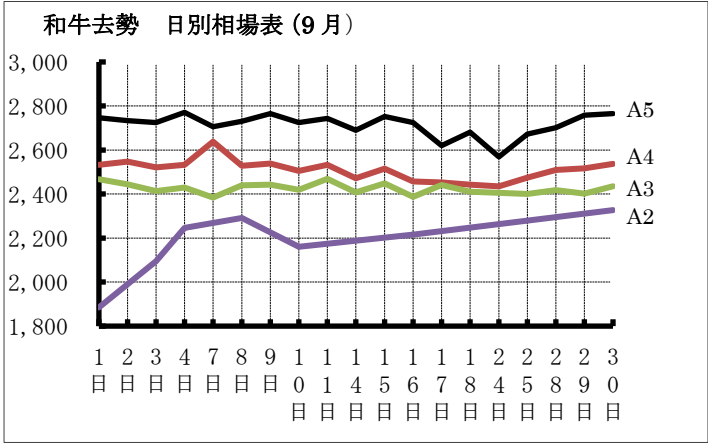
令和 8 年度全国肉用牛枝肉共励会が、来る 10 月 27 日(火)～10 月 30 日(金)にわたり開催されます。当共励会は、肉用牛肥育技術の確立と枝肉の肉質向上ならびに経済性の増進に資するため、東京食肉市場に出荷実績を持つ全国各地の出荷者によって肥育された牛が、農林水産大臣賞、東京都知事賞を始めとした数々の栄誉を競います。出品頭数は 500 頭の上場頭数にて開催され、和牛去勢牛が 261 頭、乳用去勢牛及び交雑去勢牛が 70 頭、和牛牝牛が 169 頭を予定しております。

<行事予定>

- 10 月 27 日（火）午前 10 時 00 分より出品牛測定（和牛牝）
- 28 日（水）午前 8 時 30 分よりと畜解体（和牛牝）
午前 10 時 00 分より出品牛測定
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
- 29 日（木）午前 8 時 30 分よりと畜解体
（乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛）
- 30 日（金）午前 6 時 30 分より枝肉審査
午前 8 時 45 分よりせり販売
（せり順 交雑→和牛雌→和牛去勢→搬入）
※ **せり当日、生産者の皆様は 8:10 まで
冷蔵庫に入室できません**

<9 月の相場動向>

9 月は秋雨前線や台風の影響で東京の連続降雨が 37 日と過去最長となり、レジャーや外食需要は低迷した。牛肉はスライス材に一定の動きがあったものの、消費全体では力強さを欠くものとなった。一方で出荷頭数の減少から相場価格は実需と乖離し、高値で推移している。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,722 円	+304 円	112.6%	+49 円	101.8%
A4	2,509 円	+400 円	119.0%	+36 円	101.5%
A3	2,427 円	+433 円	121.7%	+56 円	102.4%
A2	2,193 円	+595 円	137.2%	+128 円	106.2%

交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,940 円	+264 円	115.8%	-57 円	97.1%
B3	1,851 円	+328 円	121.5%	-61 円	96.8%
B2	1,761 円	+364 円	126.1%	-63 円	96.5%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	1,240 円	+100 円	108.8%	-30 円	97.6%

<10 月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、8 月の輸入量は前年同月比 10.5%減の 3 万 8,686 t で、うちチルドは 19.1%減の 1 万 2,101 t と下回り、フローゼンは前年同月比 5.9%減の 2 万 6,584t と下回った。

農畜産業振興機構によると 9 月の牛肉輸入数量は、前年同月比 6.6%減の 3 万 5,800t(チルド 0.3%減・冷凍 9.7%減)、10 月は 27.4%減の 3 万 5,700t(チルド 20.8%減・冷凍 30.6%減)と予測。10 月はほとんどの輸入先からの輸入量が減少する可能性があり、チルド・フローゼンともに現地生産量と価格を見ながらの取引が見込まれることから、大幅に前年を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		8 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	5,926	8,394	70.6%
	米国	5,010	5,569	90.0%
	その他	1,030	1,305	78.9%
	合計	12,101	14,965	80.9%
フローゼン	豪州	14,182	13,961	101.6%
	米国	9,064	9,336	97.1%
	その他	1,965	5,229	37.6%
	合計	26,584	28,256	94.1%

出典：食肉速報 単位：t

<10 月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による 10 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 92.7%の 8 万 9,800 頭で、品種別にみると和牛は 12.9%減の 4 万 2,400 頭、交雑種は 2.0%減の 2 万 2,100 頭、乳用種は 1.4%減の 2 万 4,800 頭と予測している。東京食肉市場の 10 月と畜頭数は 7,850 頭（前年比 96.5%）を予定している。

<10 月の牛枝肉相場見通し>

10 月は行楽や秋イベントによる外食需要の増加に加えて、スライス材などへの商材切り替えが進んでゆき、後半には年末商戦に向けた仕入れが徐々に始まる。また、米国・欧州・台湾・香港などの主要輸出市場でロイン系部位の引き合いが強まる時期でもあり、高価格帯の和牛相場を下支えするとみられる。

交雑種は和牛と比べた割安感から、量販店・精肉店での実需が堅調なうえ、出荷頭数が少ない見通しであることから、高値での展開が継続すると考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,650～2,900	B4	2,000～2,100
A4	2,550～2,650	B3	1,900～2,000
A3	2,450～2,550	B2	1,800～1,900
A2	2,100～2,200		
乳牛去勢			
B3	1,250～1,300		
B2	1,200～1,250		

豚肉営業部

2026 年 8 月の全国と畜頭数は 120 万 6,505 頭(前年同月比 2.5%増)と前年を上回った。また、8 月の豚肉通関数量は 8 万 197t（同 8.3%増）と前年同月から増加した。内訳はチルドが 3 万 2,809 t（同 8.1%増）、フローゼンは 4 万 7,387t（同 8.4%増）と共に前年同月から大きく増加となった。

2025-2026 年年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
12	82,651	68,313	22,928	182,068	81,767	83,176
1	80,664	83,073	22,910	190,177	80,567	74,964
2	73,952	65,442	23,465	186,194	73,310	69,425
3	78,207	76,792	24,895	186,013	76,584	76,973
4	77,021	103,288	23,825	193,172	77,942	96,129
5	69,296	93,571	23,667	210,959	69,305	75,784
6	72,158	86,816	22,550	204,142	73,118	93,633
7	72,197	92,726	22,651	220,402	72,469	88,503
8	65,791	80,140	21,723	223,936	66,570	76,606
比	103%	108%	99%	104%	104%	100%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

8 月豚肉通関実績					
アメリカ	10,137	97.4%	デンマーク	6,040	318.6%
カナダ	18,729	111.6%	スペイン	1,921	13.1%
メキシコ	3,920	123.7%	メキシコ	3,755	94.6%
			アメリカ	8,221	156.4%
			カナダ	3,513	88.1%
合計	32,809	108.1%		47,387	108.4%

単位：t

<9 月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	62,300	596	569	856
2 日	59,600	588	571	944
3 日	62,800	578	561	944
4 日	60,100	578	562	881
7 日	59,400	573	559	911
8 日	64,400	606	578	800
平均	61,433/日			889/日

9 月初めの関東は、秋雨前線の影響で気温が上がらず、出荷頭数は安定していた。夏休みが明けて学校給食向けの手当てもみられたが、末端の動きは鈍く、相場は軟調に推移した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
9 日	58,200	612	586	694
10 日	63,300	597	567	751
11 日	63,000	577	569	1,065
14 日	65,100	585	571	888
15 日	65,300	596	573	932
16 日	65,800	596	569	720
平均	63,450/日			842/日

シルバーウィークの 5 連休を控え、行楽需要への期待が高まったが、相場は 600 円台に乗らず、弱含みで推移した。輸入ポークの在庫水準が高く、円安も進んだことから、解凍品を含め、輸入物での特売を組む動きが増えた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
17 日	66,600	594	570	858
18 日	61,400	616	599	1,070
24 日	73,300	573	553	724
25 日	71,900	629	607	1,154
28 日	66,800	570	559	1,054
29 日	67,800	589	567	1,121
30 日	67,200	601	578	801
平均	67,857/日			969/日

全国のと畜頭数は 6 万頭台後半から 7 万頭で推移した。東京都内では観測史上最長の連続降雨を記録するなど、天候不順が続いたことから、需要は伸び悩んだ。

<10 月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和 8 年 10 月の肉豚出荷予測では 141 万頭（前年同月比 95.4%）と予測している。当市場の 10 月集荷予定せり頭数は 2 万頭、1 日あたりでは約 952 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 10 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 8 万 7,600t（同 103.2%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 5,000t（同 91.0%）、冷凍輸入量は 5 万 2,600t（同 113.4%）と予測。

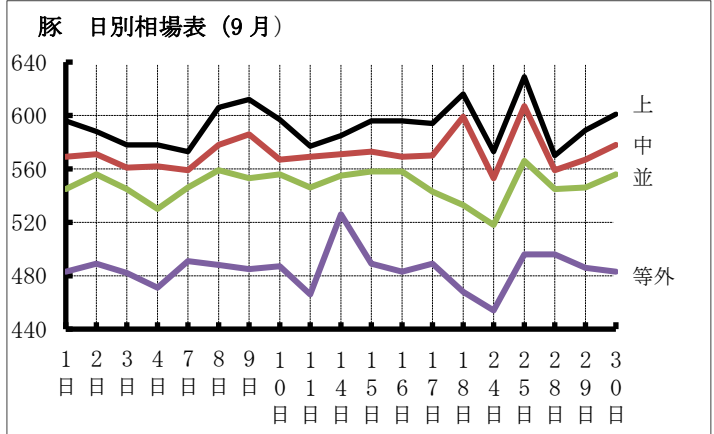
冷蔵品輸入量は、国内の輸入品在庫が多いことや、国産豚肉の相場が直近では前年を下回って推移していることなどから、前年同月をかなりの程度下回ると予測している。一方で 3 カ月平均では前年同期をわずかに上回る見込みとしている。

冷凍品輸入量については、国内の冷凍倉庫で保管スペースが逼迫する中、スペイン産の代替として、ブラジルや米国、欧州各国などからの輸入が増え、前年同月をかなり大きく上回ると予測している。3 カ月平均でも、前年同期を大幅に上回ると予測している。

気象庁の 1 カ月予報によると、10 月は全国的に気温が高い見込みだが、朝晩は気温が下がって過ごしやすくなる。下旬にかけて鍋物需要が少しずつ出始め、バラの引き合いが強まりそうだ。

供給面では、ほぼ前年並みの水準となる見通しだ。関東や東北では猛暑にならなかったことから、生育は順調に進んでいる。今後は寒暖差による呼吸器系などの疾病が懸念されるものの、比較的安定した出荷が期待される。

以上のことから当市場の上物平均価格は 580 円前後、中物平均価格 560 円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127